

経営Q&A

回答者

トーマツ ベンチャーサポート株式会社

Morning Pitch 総合プロデューサー

納富 隼平

「現代のベンチャー企業を知る」

第1回：「そもそもベンチャー企業とはどんな会社でしょうか？」

Question

【相談者：ベンチャー企業からの相談依頼がある会計士・税理士】

私の事務所では昔から中小企業からの相談依頼が多かったのですが、最近ではベンチャー企業の方からの相談が増えてきました。巷ではベンチャー企業が話題になることも多いですし、ベンチャー企業と積極的に取引している事務所もあると聞いています。

我々も、ベンチャー企業との取引を拡大していくことを検討しており勉強しているところなのですが、ベンチャー業界特有の用語などがいまひとつわからないときがあります。そもそもベンチャー企業の定義など、基礎から教えていただけないでしょうか？

Answerの要点

- ベンチャー企業について、正確な定義はありませんが、革新的なサービスを開発し、イノベーションを生み出す企業であり、設立数年程度の若い企業です。
- 「技術ベンチャーとネットベンチャー」または「シード」「アーリー」等成長度に応じてベンチャーを分類することがあります。



Answer

《執筆者紹介》

2009年明治大学経営学部卒、2011年早稲田大学大学院会計研究科修了。在学中公認会計士試験合格。大手監査法人で大手電機メーカーを中心に会計監査に携わった後、トーマツベンチャーサポート株式会社に参画。

毎週開催早朝ピッチイベント“Morning Pitch”、BtoCベンチャープレゼンイベント“sprout”、ベンチャーとエンジニア・デザイナーマッチングプラットフォーム“faces”を責任者として運営。得意分野はファッションや衣食住のライフスタイル関連のBtoCサービス。

はじめまして、トーマツベンチャーサポート株式会社（以下「TVS」）の納富 隼平（ノウトミジュンペイ）と申します。今回から全6回にわたり、「現代のベンチャー企業を知る」として、ベンチャー企業や、ベンチャー企業を取り巻く環境について解説をさせていただきます。よろしくお願ひ致します。

まず、そもそもTVSはどんな組織なのかということをお話させていただきます。

TVSは、有限責任監査法人トーマツの子会社（グローバルではDeloitte（デロイト）と呼ばれています）として1997年に設立され、20年に渡りベンチャーを支援する組織として現在に至ります。

私自身は現在、Morning Pitchを始め「ピッチ（※1）」各種イベントの責任者を務めています。こちらについては連載が進む中で必要に応じて触れさせていただければと思います。

ベンチャー企業とは、イノベーションを生み出す企業

さて、そもそもベンチャー企業とはどのような企業を指すのでしょうか。筆者が知る限り、ベンチャー企業について、コンセンサスのある正確な定義はありません。これには、ベンチャー企業と呼ばれる企業は時代とともにどんどん様態が変わってくるから、という事情もあります。

とはいえ、本稿をご覧になっている方々からすれば指針はあった方がいいでしょうから、本稿ではベンチャー企業を以下のように定義したいと思います。

ベンチャー企業とは、革新的な技術・製品・サービスを開発し、イノベーションを生み出す企業であり、設立数年程度の若い企業。

念のために申し上げますが、以上は正確な定義ではなく、本稿を読み進めるうえで



日本政策金融公庫
国民生活事業

の便宜的な定義になります。また、余談にはなりますが、ベンチャーに似た言葉に「スタートアップ」という言葉があります。使い分けることもあります。現時点ではほぼ同義と申っていただいて問題ありません。

ベンチャーの分類方法① - 技術ベンチャーとネットベンチャー

さて、ベンチャー企業をもう少し深掘りしてみましょう。ベンチャー企業にはいくつかの分類方法があります。例えば、わかりやすいものとして、産業（ファッション、不動産、金融等）で分ける方法がありますが、それは次回以降に譲るとして、ここでは技術ベンチャーとネット（インターネット）ベンチャーという分け方を紹介しましょう。

技術ベンチャーとは、技術そのものを開発しているベンチャー企業です。大学の研究室がそのままビジネスを目指してベンチャー企業になったようなことをイメージして下さい。他方で、ネットベンチャーとは、技術を使って消費者や企業が実際に使う形式のインターネットサービスを開発しているベンチャー企業です。

例えば、最近では人工知能がベンチャー業界のトピックの一つですが、人工知能そのものを開発したり人工知能の性能を高めたりするのは技術ベンチャーで、人工知能を使って具体的なサービス（人工知能がファッションを選んでくれる、人工知能が質問に回答してくれる等）を作るのがネットベンチャーというイメージです。

我々は生活する上で色々なサービスを使っています。そのとき目に触れるのがネットベンチャー、大学の研究室のように難しそうな研究開発をしているのが技術ベンチャー、というイメージも良いかと思います。

ベンチャーの分類方法② - 成長度に応じた分類方法

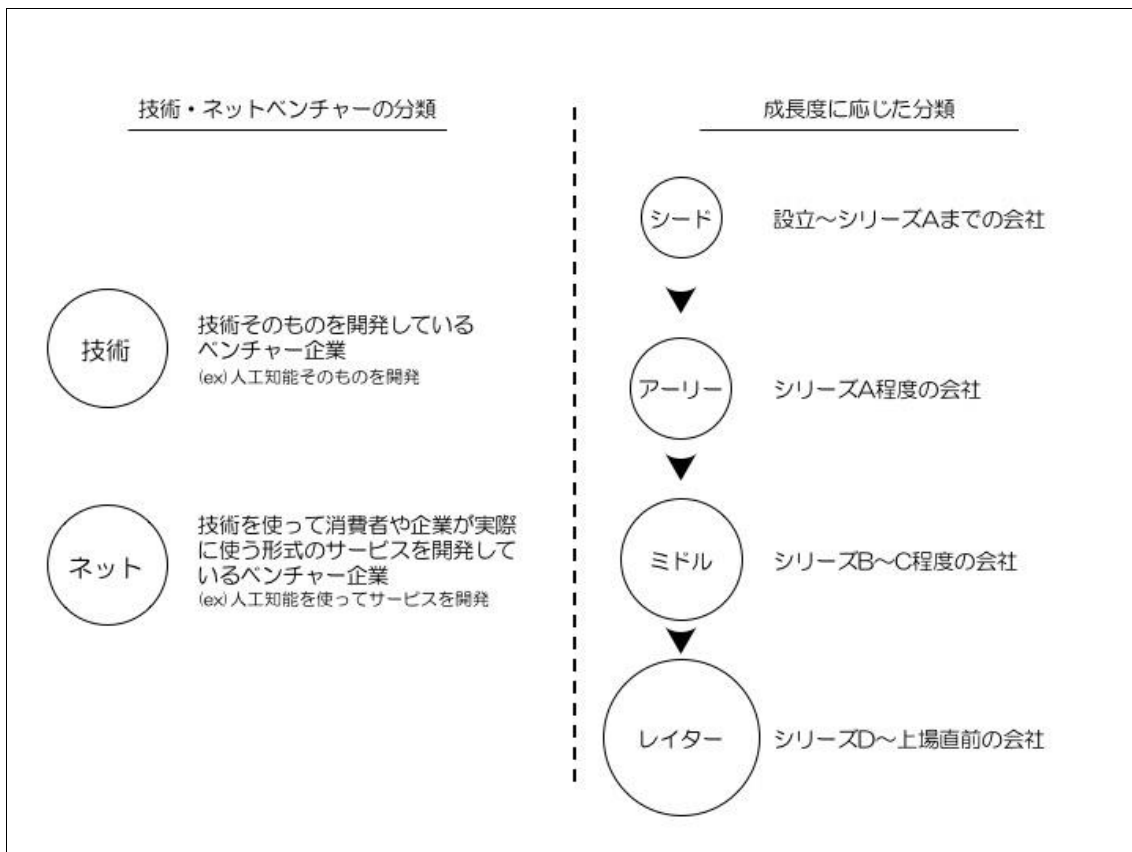
ベンチャーの話題を追っていると、「シード」「アーリー」「ミドル」「レイター」という言葉をみかけることがあります。次はこちらを解説しましょう。

「シード」「アーリー」…という言葉は、ベンチャー企業の成長度（ステージ）に応じた分類方法です。設立したての企業は「シード」、IPO（※2）直前の企業は「レイター」と言われます。これらの用語も、具体的にどのような要件が揃えば「アーリー」と呼ぶといった定義はなく、実際には文脈次第にはなってしまいますが、以下のようにイメージしていただければどんな場面でも適用できるでしょう。

| 資金調達の段階による分類 | 成長度 | プロダクトの段階による分類 |
|--|------|-----------------|
| 設立～シリーズ A（※3）程度の資金調達をしている会社 | シード | テスト版をリリースしている会社 |
| シリーズ A 程度の資金調達をしている会社 | アーリー | 本製品をリリースしている会社 |
| シリーズ B～シリーズ C 程度の資金調達をしている会社 | ミドル | 本製品の拡大期を迎えている会社 |
| シリーズ D 以降の IPO 直前、または IPO の準備がかなり進んでいる会社 | レイター | |

以上をご覧いただければお気づきかと思いますが、本分類はベンチャー企業の資金調達またはプロダクトの段階に応じた分類となっております。両者は必ずしも一致するわけではないですが、参考としていただければと思います。

また、レイターステージの次は IPO となっており（ベンチャーの多くはベンチャーキャピタルから資金調達しており、上場または M&A をすることを前提としています）、晴れて上場企業の仲間入りということになります。



▲ベンチャー企業の分類の仕方一例

今回は「ベンチャーの成長の仕方」について

第1回は以上になります。いかがでしたでしょうか。

今回は「ベンチャーの成長の仕方」に注目して、資金調達、事業提携等について深掘りして解説していきたいと思います。

(注) 内容は予告なく変わる場合がございます。

〈用語・解説集〉

ベンチャー業界には特有の言葉使いがあるので用語集として紹介致します。

(※1) ピッチ：短時間のプレゼンテーションのこと。30秒～10分程度に設定されることが多い。特に短いプレゼンテーション(2分程度)はエレベーターピッチとも言われます。

(※2) IPO：Initial Public Offering。株式上場のことです。

(※3) シリーズA：ベンチャーがVCから資金調達することをシリーズXと表現します。1回目の資金調達はシリーズA、2回目の資金調達がシリーズB…と続いていきます。もちろん、VCから資金調達をせずに上場までいくこともあります。

